

中濃農林事務所の普及活動状況 令和5年2月25日現在

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■新規就農者・研修生 JAめぐみの集合研修

JAめぐみの管内の研修拠点等の研修生は、主に実技中心の実践研修をしており、それを補完する講義として集合研修が開催されている。

2月3日の「GAP・農作業安全について」の講義では、JAめぐみと農業普及課から、GAP（農業生産工程管理）の概要や、ぎふ清流GAP評価制度の紹介、地域の実践事例の紹介などを行った。また、全国共済農業協同組合連合会岐阜県本部からは、農作業事故を防ぐ事前対策についての説明や、VR技術を用いた農作業事故の疑似体験が行われた。研修を通じて、受講生は農業生産現場における、食品安全や労働安全等の対策の観点が広がったと思われる。

2月10日の最終講では、「先輩農家の話」として、武儀地区指導農業士会長と就農4年目の生産者が講師となり、自身の経営内容や経営方針、就農に至る経緯など体験に基づくアドバイスが語られた。農業普及課では、講師の選定と発表資料作成などを支援した。

全15回開催のうち10回以上の出席者に修了証が授与され、中濃管内では3名が該当した。

農業普及課では、新規就農者の育成と営農定着に向けて、集合研修や新規就農者への重点巡回指導などに取り組んでいく。（地域支援係）



【講義の様子】

■新規就農者 青年等就農計画の認定検討会議

令和4年12月まで農業法人にて就業し、現在就農準備を行っている1名が、令和5年度に美濃市での就農を予定しており、農業普及課はこれまで青年等就農計画認定申請書の作成を支援してきた。

2月15日、美濃市防災中央コミュニティセンター会議室で、青年等就農計画の認定検討会議が行われ、主催の美濃市と関係機関である岐阜県農業共済組合中濃支所、農業普及課が出席して、認定の要件を満たす内容であるかを検討した。

会議には、新規就農予定者も出席して自身の就農計画を説明し、美濃市および関係機関からの質問を受けたが、高い就農意欲があり、就農後のビジョンも明確であった。

農業普及課では、就農に向けた支援を継続するとともに、就農後もフォローアップ農家として重点的な支援を行っていく。（地域支援係）

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■普及指導活動成果発表会 「ひらく農業・中濃」を開催

中濃農林事務所農業普及課は、2月20日に令和4年度普及指導活動成果発表会「ひらく農業・中濃」を開催し、農業者、関係機関等45名が出席した。

農業普及課からは、「「ぎふ清流GAP評価制度」を活用した農業経営現場の改善」と題して、管内でのGAP推進活動の成果について発表を行った。また、講演会では、農研機構の志藤博克氏を講師に招き、農作業安全の重要性と基本的な取り組み方法について講義いただいた。

農業普及課では、これからも管内の産地の持続的な取り組みや担い手の育成などについて、関係機関等と連携した支援を継続していく。

（地域支援係）



【発表の様子】

■ぎふ清流GAP評価制度 農場評価

2月1日、関市の土地利用型の法人が、米でぎふ清流GAPの農場評価を受け、農業普及課も同席した。

評価はおよそ5時間かけて、リスク評価等の書類確認、農薬保管庫等の現地確認が行われ、改善が必要な箇所について、評価員から説明を受けた。

今後、農業普及課では、一次結果報告書の結果を受けて生産者が行う是正について引き続き支援する。また、関係機関と連携しながら、食品安全や環境保全、労働安全等に配慮したGAPを推進していく。

(地域支援係)



【農場評価の様子】

■円空さといも 新規説明会

1月30日、関市小瀬のJAめぐみの施設にて、円空さといも生産組合新規説明会が開催され、新規に栽培を希望する7名が出席した。

農業普及課から栽培方法や病虫害防除について説明後、組合長等から実際の栽培で工夫していることや良かったことなどの補足もあり、里芋栽培について理解が深まったようであった。JAめぐみからは、経営試算や組合への加入手続きに加え、来年度実施される就農塾の紹介が行われた。

農業普及課では、今後も里芋新規栽培者への栽培指導を重点的に実施し、産地支援を継続していく。

(地域支援係)



【説明会の様子】

■ゆず 剪定研究会を開催

かみのほゆず研究会では、ゆずの剪定時期の2~3月に剪定研究会を開催し、生産者の栽培技術の向上を図っている。

2月9日の午前と午後、2会場に分けて研究会が開催され、計11名の生産者が参加した。

農業革新支援専門員を講師に迎え、基礎的な剪定の指導を受けるとともに、8年以上の成木や4年程度の幼木の剪定方法について実演を交えながら質疑を交わした。ゆずは毎年の剪定が欠かせないが、予め残しておく枝に印を付けておき、翌年の剪定時に残す枝がわからなくなってしまうようにする等の提案があった。

農業普及課では、適切な剪定によるゆずの品質向上に向けて支援を継続していく。

(地域支援係)



【研究会の様子】